

【I ペテロの手紙2章】

「人がもし、不当な苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえるなら、それは喜ばれることです。」

(2 : 19)

「主のもとに来て」というのは神様のご臨在される所、教会と言えます。「みことばの乳」というのは聖書です。またはそれを解き明かすメッセージであり、預言の言葉であり、夢、幻、、、です。これを慕い求めるべきであると語られています。ご飯を食べなければ、体力が落ちるでしょう。そのように霊の糧も、毎日頂かなければ、病気になるてしまいます。

この「主」というお方は、イエス・キリストです。人々の罪、病い、呪いをその身に負われたにもかかわらず、人に捨てられ、十字架に釘付けされ死なれました。しかし神の目には選ばれた尊い生ける「礎の石」となられました。彼に信頼する者は、決して失望させられることはありません。ですから私達はどんなことがあってもこのお方に感謝し、賛美して行きましょう。神様は、信頼する者に最善を成して下さるお方です。あわやという時に、何度もこのお方に助けられました。今まで助けられてきたことを一つ一つ思い起こしてみましよう。息子がすでに仮死状態になっていた時も、夫や、孫が死んでも同然な状態になった時も、車で山の細い道に入り込んでどう仕様にもなくなった時も、子供の学費がなくなった時も、、、イエス様に信頼して祈る時に、きっと助けを与えて下さいました。

「人がもし、不当な苦しみを受けながらも～」 「あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」この様な記事を見つけました。ある母親は、長年息子の暴力に疲れ果てて警察に相談に行ったそうです。「息子さんはお母さんから愛されていない不満を暴力をふるうことで訴えているのですよ。刑務所や精神病院に入れても本当の解決にはなりません。」と言われました。自分ほど我慢して息子の暴力につきあった母親はいないだろうと思っていましたが、もう我慢の限界を越え、疲れ切った母親は死ぬより他はないと思いましたが、自分の死んだあと息子はどうするだろうと考えると心配になりました。息子の暴行によって死ぬなら、息子は精神病なので死刑になることはないだろう～母は、息子に土下座して謝ったのです。「一生懸命やったつもりだけど、不十分でごめんね。そんなに私が憎いのなら、気の済むまで殴ったりけっていいからね。」この時初めて母親の目が開かれて、今まで上から目線で、こんな悪い子だのに私は面倒を見てきた。と思いあがった心を悔い改めたそうです。息子の暴行を逃げず甘んじて受けている間、不思議と平安で痛みを感じなかったそうです。十字架のイエス様のお姿を想い続けていました。母親は、イエス様に聞き従い、信頼し、その足跡に従ったのです。罵倒と暴行を1時間以上も続けた息子は、部屋に戻って号泣し始め、2時間くらい泣き続けたそうです。その日以来息子の暴力はぴたっと止まったそうです。この母親の命を懸けた愛と悔い改めと赦しは、息子に完全な解放を与えました。

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:D大重 勝裕

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2013.9.15 No.754

今年のみ言葉

天よ。耳を傾けよ。私は語ろう。
地よ。聞け。私の口のことばを。
私のおしえは、雨のように下り、
私のことばは、露のようにしたたる。
若草の上の小雨のように。
青草の上の夕立のように。

私が主の御名を告げ知らせるのだから、

栄光を私たちの神に帰せよ。

主は岩。主のみわざは完全。まことに、主の道はみな正しい。

主は真実の神で、偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。

申命記32 : 1～4



エルサレムの平和のために祈れ。

詩篇122:6

10月6日はエルサレムの平和のために祈る日です。

シリア・中東の為に！！

主の十字架クリスチャンセンター (TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlccfrh/>